

令和6年度事業報告書

～みやぎの赤十字～



日本赤十字社 宮城県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字のはじまり

1859年、スイス人 アンリー・デュナンは、第2次イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノに程近いカスティリオーネで、戦野に放置されていた傷病兵の悲惨な有り様を目の当たりにしました。

その時、デュナンは「傷ついた兵士は、もはや兵士ではなく、人間である。人間同士として尊い命を救わなければならぬ。」という思いを抱き、住民の協力を得て、敵味方の区別なく救護に努めました。この体験を記した著書「ソルフェリーノの思い出」がデュナンの抱いた思いの尊さを世界に広め、1863年に赤十字国際委員会 (ICRC) が、また1919年には平時活動を担当する国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC) が創設されました。

日本赤十字社の誕生

日本赤十字社は、1877年の西南戦争の際、佐野常民と大給 恒によって設立された救護団体「博愛社」が前身です。(1887年「日本赤十字社」に改称。)

彼らは官軍・薩摩軍双方に多数の死傷者が出てる悲惨な状況に、戦争時の傷病者救護の必要性を痛感して博愛社の設立を明治政府に願い出ます。「敵味方の区別なく救護する」ことへの理解が得られずに一度は却下されますが、佐野は熊本の官軍司令部に赴き、西南戦争の征討総督であった有栖川宮熾仁親王へ直接願い出て、親王の英断によりその設立が認められました。

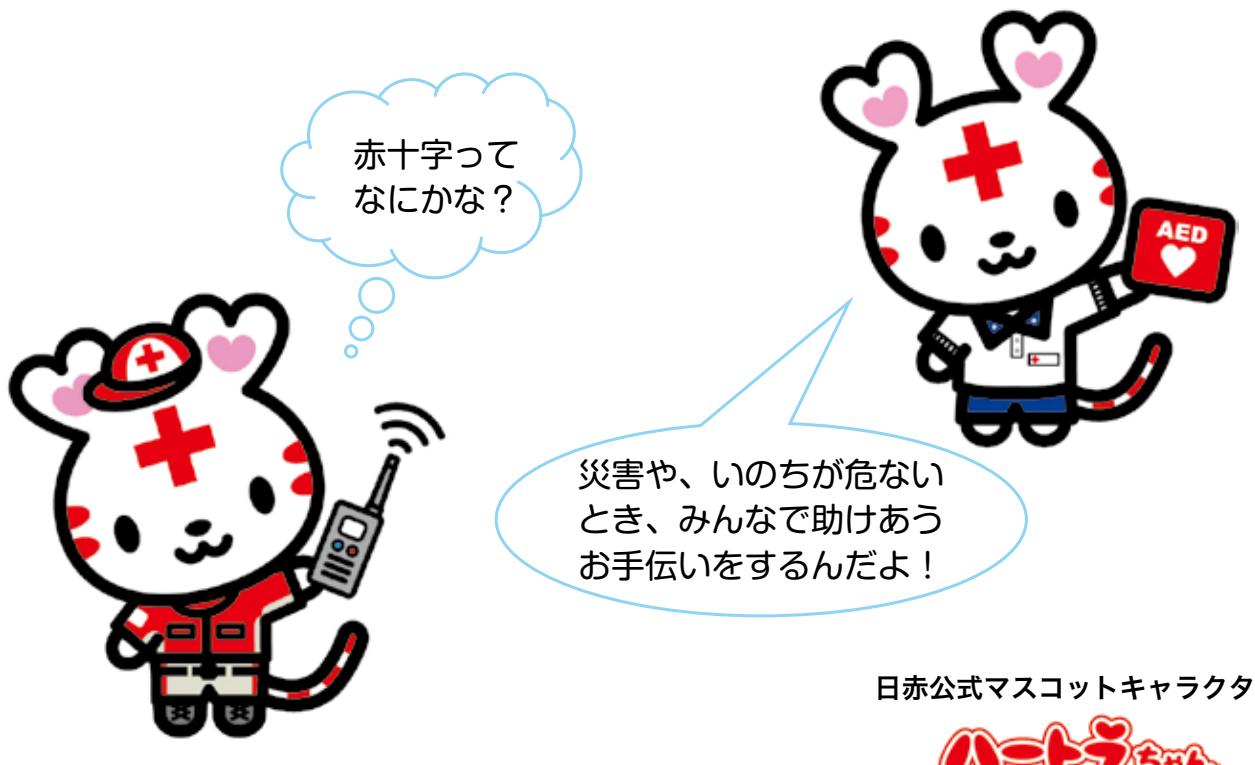
宮城県支部は、1887年に「日本赤十字社宮城県委員部」として開設され、1894年に「日本赤十字社宮城県支部」となって現在に至ります。

赤十字の標章

赤十字の標章は、1863年の国際会議において、創始者アンリー・デュナンの祖国スイスに敬意を表し、スイス国旗の配色を転用して「白地に赤十字」と決められました。現在は、イスラム教国の多くが「白地に赤い三日月（赤新月）」のマークを使っていますが、これも赤十字と全く同じ組織であることを示す標章として認められています。また、2007年1月には「白地に赤いひし形（レッドクリスタル）」が追加され、これを使用する国は、レッドクリスタルの中にその国独自のマークを入れて使用することが認めされました。

これらの標章は、保護の標章として、戦時において軍の衛生部隊に所属する人、建築物、施設、車両及び資材等に付し、付されたものを攻撃対象としてはならないと決められています。また、表示の標章として、赤十字社の建物、自動車、出版物等に対し、赤十字の目的達成のために使用されます。

赤十字標章の使用は、国際法「ジュネーブ条約」、さらにそれぞれの国内法（日本では「赤十字の標章及び名称等の使用の制限に関する法律」昭和22年法律第159号）により厳しく制限されています。



日赤公式マスコットキャラクター

ハートラちゃん

目 次

• 1 ((救護活動	P 1
• 2 ((国際活動	P 6
• 3 ((赤十字の講習	P 7
• 4 ((赤十字奉仕団・赤十字ボランティア	P10
• 5 ((青少年赤十字 (JRC)	P12
• 6 ((赤十字精神と社旨の普及	P15
• 7 ((パートナーシップ協定等	P17
• 8 ((会員・協力会員の募集状況	P17
• 9 ((評議員会等の開催状況	P18
• 10 ((職員研修の開催状況	P18
• 11 ((支部事務局職員数	P18
• 12 ((医療事業	P19
• 13 ((看護師養成事業	P22
• 14 ((血液事業	P25
• 15 ((令和6年度決算	P27

・1 (救護活動)

(1) 災害救護活動

災害による被災者の救護活動を迅速かつ的確に実施するため、仙台・石巻両赤十字病院に常備医療救護班計16個班を編成しています。救護班1個班の編成は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事2人の計6人を基準としており、災害の状況や規模などにより要員の増減、または薬剤師等の必要な職種を追加する体制となっています。

そのほか、災害救助法第16条及び宮城県地域防災計画等に基づき、医療及び助産についての救護、遺体の処理等について宮城県及び仙台市と委託契約を結び、訓練を重ね、装備を充実させて、常時出動できる体制を維持しています。

令和6年度は、令和6年7月25日からの秋田・山形大雨災害に際し山形県酒田市へこころのケアチームを、令和7年2月に発生した大船渡市赤崎町林野火災に際し被災地へ救護班及びこころのケアチームを派遣しました。



令和6年度救護班任命式（仙台赤十字病院）



令和6年度救護班任命式（石巻赤十字病院）

【令和6年7月25日からの秋田・山形豪雨災害への対応】

令和6年7月25日からの大雨による被害があった山形県酒田市でこころのケアのニーズがあったことから、山形県支部及び第1ブロック（北海道・東北）各支部が協力し、発災から約一か月間絶え間なくこころのケアチームを派遣しました。宮城県支部からは仙台赤十字病院のチームを8月16日から8月19日まで、石巻赤十字病院のチームを8月25日から8月28日まで派遣し、傾聴や血圧測定などの健康相談を中心に健康管理を実施し、被災者に寄り添った支援を行いました。

派遣種別	派遣 班数	派遣職種別人数			合計
		看護師	臨床心理士	主事	
こころのケア班	2班	3名	1名	2名	6名



山形豪雨災害こころのケア活動（仙台赤十字病院）



【令和7年大船渡市赤崎町林野火災への対応】

令和7年2月に発生した大船渡市の林野火災被害に対して、被災地の避難所状況調査とこころのケアのニーズがあつたことから、岩手県支部及び第1ブロック（北海道・東北）各支部が協力し、救護班及びこころのケアチームの派遣を行いました。宮城県支部からは、避難所状況調査への対応に石巻赤十字病院から2月28日に救護班を派遣し、避難所環境整備の必要性について現地スタッフに対し助言指導を行いました。また、仙台赤十字病院からこころのケア班を3月10日から3月12日まで派遣し、健康管理と避難所の環境整備など、被災者に寄り添った支援を行いました。

また、3月6日には宮城県支部の備蓄物資である段ボールベッドを支部職員が避難所へ搬送しました。

派遣種別	派遣班数	派遣職種別人数			合計
		看護師	臨床心理士	主事	
救護班	1班	1名	2名	2名	5名
こころのケア班	1班		2名	1名	3名



大船渡市の林野火災に伴うこころのケア班の活動
(仙台赤十字病院)



大船渡市の林野火災に伴う避難所へ段ボールベッドを搬送

(2) 臨時救護活動実施状況

宮城県内で実施された東北絆まつり2024や仙台七夕まつり、みちのくYOSAKOIまつりなどのイベントに臨時救護所を設置し、傷病者の応急手当を行いました。

件数	派遣救護員数（延べ）								取扱患者数
	医師	看護師長	看護師	主事	奉仕団員	支部職員	その他	合計	
27件	21名	1名	92名	48名	30名	18名	0名	210名	238名

(3) 救護装備の整備と充実

救護装備資材の本年度配備数

品名	配布先	市地区		郡地区・分区		管内施設	計
		17張	6張	0張	23張		
ワンタッチテント							
救護資材倉庫							
赤十字災害救援等車両「はくあい号」							

(4) 救援物資の配分状況

被災区分	被災世帯	被災人数	救援物資配分数			
			毛布	緊急セット	安眠セット	タオルケット
住家全焼	27世帯	56名	51枚	31組	2組	0枚
住家全壊	0世帯	0名	0枚	0組	0組	0枚
住家半焼	11世帯	20名	15枚	14組	3組	0枚
住家半壊	0世帯	0名	0枚	0組	0組	0枚
住家床上浸水	0世帯	0名	0枚	0組	0組	0枚
避難所等に避難を要する	9世帯	15名	34枚	0組	0組	0枚
その他	13世帯	22名	15枚	10組	0組	0枚
計	60世帯	113名	115枚	55組	5組	0枚



災害救援物資（安眠セット）



災害救援物資（緊急ヤット）

(5) 救護訓練・救護員研修

① 訓練の実施状況

訓練名称	実施	場所	参加者数				計
			仙台 日赤	石巻 日赤	血液 センター	支部	
海上保安庁との合同訓練	5/23	塩釜市	5	13	0	5	23
みやぎ県民防災の日総合防災訓練	6/12	宮城県庁	2	5	0	2	9
名取市総合防災訓練	6/1	名取市	0	0	0	2	2
仙台市総合防災訓練	6/12	宮城県消防学校	7	0	0	1	8
酷暑期避難所演習2024	7/27、28	大阪府八尾市	0	4	0	0	4
宮城県9.1総合防災訓練	9/1	南三陸町	0	7	0	0	7
大規模地震時医療活動訓練 (DMAT 政府訓練)	9/28	東京都 千葉県	4	10	0	1	15
東北ブロック DMAT 参集訓練	10/5	山形県酒田市	0	10	0	0	10
第1ブロック支部合同災害救護訓練	10/4、5	北海道北見市	10	11	0	5	26
大型旅客船事故対応訓練	10/7	仙台市	0	5	0	0	5
仙台空港事故対応訓練	10/10	名取市	0	4	0	1	5
宮城県東部保健福祉事務所災害対応訓練	10/26	石巻赤十字病院	7	35	0	0	42
みちのく ALERT2024訓練	11/16	霞ヶ浦駐屯地 石巻市	5	45	0	1	51
青森県原子力防災訓練	11/23	青森県むつ市	0	5	0	0	5
原子力災害医療棟養生訓練	1/31	石巻赤十字病院	0	9	0	0	9
宮城県原子力災害医療受入対応訓練	2/13	石巻赤十字病院	0	22	0	0	22
風水害対策機上訓練	3/19	石巻赤十字病院	0	36	0	0	36



宮城海上保安部との合同訓練
(ヘリコプターにて重症者を搬送)



宮城海上保安部との合同訓練
(傷病者に応急処置)

②救護員等研修の実施状況

名称	主催	開催数	延日数	延参加者数
救護班要員研修	仙台赤十字病院	1回	1日	73名
	石巻赤十字病院	3回	3日	125名
救護班出動訓練	石巻赤十字病院	1回	1日	73名
大規模地震災害実働訓練 ※石巻赤十字病院は、みちのく ALERT2024 と合わせて開催	仙台赤十字病院	1回	1日	140名
	石巻赤十字病院	1回	1日	328名
トリアージ研修（記載等）	石巻赤十字病院	1回	1日	7名
トリアージ研修（PAT）	石巻赤十字病院	3回	3日	84名
救護所レイアウト研修	石巻赤十字病院	1回	1日	73名
救護班等研修（ITコース）	石巻赤十字病院	1回	1日	33名
テールゲートリフター特別教育研修	日本赤十字社宮城県支部	1回	1日	7名
	石巻赤十字病院	1回	1日	9名
こころのケア要員研修	石巻赤十字病院	1回	1日	32名
こころのケア指導員養成研修	日本赤十字社本社	1回	2日	3名
日赤災害医療コーディネート研修会	日本赤十字社本社	1回	2日	3名
第1ブロック赤十字救護班研修会	日本赤十字社第1ブロック	1回	2日	49名
統括DMAT研修	厚生労働省	1回	2日	1名
統括DMAT技能維持研修 ロジスティック研修	厚生労働省	1回	2日	3名
日本DMAT養成研修	厚生労働省	4回	14日	7名
DMAT技能維持研修	厚生労働省	1回	2日	3名
宮城県災害医療技能研修	宮城県	1回	2日	18名
原子力災害基礎研修	高度被ばく医療支援センター	1回	1日	1名
原子力災害中核人材研修	高度被ばく医療支援センター	1回	3日	6名
原子力災害中核人材技能維持研修	高度被ばく医療支援センター	1回	2日	1名
原子力災害医療派遣チーム研修	高度被ばく医療支援センター	1回	1日	8名
原子力災害医療 甲状腺簡易測定研修	高度被ばく医療支援センター	1回	1日	1名
ロジスティックス研修	石巻赤十字病院	1回	1日	1名
宮城県医療救護活動従事者研修会	宮城県	1回	2日	3名
こころのケア要員研修	仙台赤十字病院	1回	1日	18名



第1ブロック支部合同災害救護訓練（避難所アセスメントの様子）

(6) 災害義援金の取扱状況

県内外の篤志者から下記のとおり寄託があり、本社・被災地の日赤支部・地方自治体の義援金配分委員会を通じて、全額が被災された方々に配分されています。

名 称	件 数	受 付 額
令和6年能登半島地震災害義援金	383件	38,331,274円
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	134件	12,121,249円
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	40件	2,421,893円
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	112件	915,733円
令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	18件	54,175円
計	687件	53,844,324円



令和6年能登半島地震災害義援金の寄託
(株式会社仙台89ERS)

・2 (国際活動)

(1) 国際援助活動

変動を続ける国際情勢と世界各地に頻発する各種災害などによる被災者や難民等の救援活動は、日本赤十字社本社が中心となって活発な活動を展開していますが、国際活動への各支部の直接参加の要請の高まりに対応して、第1ブロック支部間で協調による国際援助活動を実施しています。

事 業 内 容	対 象 国	当支部支援額	第1ブロック合計
救急法普及支援事業	ラオス	268,000円	1,500,000円
青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	268,000円	1,500,000円
気候変動等レギリエンス強化事業	ルワンダ	268,000円	1,500,000円
気候変動対策事業	アフガニスタン	268,000円	1,500,000円
支援合計額		1,072,000円	6,000,000円



植樹のレクチャーをする技術スタッフ
© Meer Abdullah_ARCS



日赤の支援でルワンダの村に完成した水道。人々の健康や衛生状態の改善に貢献します。©日本赤十字社

(2) 国際救援事業

紛争が続く中東地域や、新たに難民が発生している東南アジアの情勢に対応するため、日本赤十字社では、皆様から寄せられた救援金をもとに、救援活動や人道支援を展開しています。
また、毎年NHKと共に「海外たすけあい」キャンペーンを12月に全国一斉展開し、寄せられた寄付金で本社を通じて国際救援事業を実施しています。

名 称	件 数	受 付 額
バングラデシュ南部避難民救援金	3件	10,228円
中東人道危機救援金	3件	10,230円
アフガニスタン人道危機救援金	4件	11,138円
ウクライナ人道危機救援金	52件	419,595円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	36件	143,273円
2024年台湾東部沖地震救援金	140件	9,980,671円
レバノン人道危機救援金	8件	2,286円
無指定	2件	16,893円
NHK海外たすけあい	213件	2,358,075円
計	461件	12,952,389円

•3 (赤十字の講習)

「人間の苦痛を予防・軽減し、生命の尊重を確保する」という赤十字理念のもと、事故防止思想の涵養と不慮の事故や急病に対する救命手当及び応急手当の方法を内容とした「救急法」をはじめ、各種の講習を広く一般の方々を対象に開催しています。

(1) 救急法

病気やけがや災害から自分自身を守り、傷病者を正しく救助し、医師等に引き継ぐまでの救命手当及び応急手当として、「心肺蘇生」「A E D」「気道異物除去」「急病」「止血法」「包帯」「固定」「搬送」などの正しい知識や技術を指導しています。

(2) 水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るため、「水の事故防止」「泳ぎの基本と自己保全」「溺者の発見と救助」「着衣泳」「応急手当」などについて実技を中心に指導しています。

(3) 健康生活支援講習

「高齢者の健康と安全」「自立した生活を続けるための基礎知識」「地域における支援活動」に役立つ知識と技術を指導しています。

また、災害時に高齢者を不安や不自由な生活から守り、自立した生活が維持できるよう、支援技術を指導しています。

(4) 幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防(安全教育)と応急手当の方法、病気への対応の仕方を指導しています。

①各講習の開催状況

(単位：回 または 名 / 受講者数は延べ人数)

区分 講習名	基礎講習			養成講習			短期講習		計（講習別）	
	開催数	受講者数	養成者数	開催数	受講者数	養成者数	開催数	受講者数	開催数	受講者数
救急法	44	643	641	25	438	427	170	5,610	239	6,691
水上安全法 (プール)				3	25	23	16	330	19	355
健康生活 支援講習				6	76	74	24	680	30	756
幼児安全法				6	103	101	113	1,662	119	1,765
計 (区分別)	44	643	641	40	642	625	323	8,282	407	9,567

②救急法等指導員研修会の実施状況

回数	救急法等指導員 研修会	参加者数（延べ人数）						ボランティア	計		
		赤十字職員				看護専門学校					
		支部	病院	血液センター							
6回	22名	58名	2名	7名	96名	185名					

参考：指導員の在籍状況

所属 指導員資格	赤十字職員				ボランティア	計
	支部	病院	血液センター	看護専門学校		
救急法指導員	10名	29名	3名	3名	60名	105名
水上安全法指導員	1名	4名	0名	1名	14名	20名
健康生活支援講習 指導員	1名	15名	0名	1名	7名	24名
幼児安全法指導員	4名	15名	0名	1名	24名	44名
計（延べ人数）	16名	63名	3名	6名	105名	193名

③ワールド・ファーストエイド・デー事業の実施状況

国際赤十字・赤新月社連盟が救急法等の普及のため推進している本事業に呼応し、救急法等講習普及イベントとして、9月に県内2会場にて、ワールド・ファーストエイド・デー 2024を開催しました。

日程	市町村名	会場	体験者数(延べ)
9月14日	利府町	イオンモール新利府北館2F北イベントコート	32組75名
9月15日	石巻市	イオンモール石巻1F緑の広場	73組179名

【開催内容】

【一次救命処置体験コーナー】

体験者の希望に沿えるよう、成人・幼児・乳児の訓練人形を用意して、手順の説明とデモンストレーションを行い、実際に人形を使って体験していただきました。様々な年代の参加があり、皆さん大変熱心に取り組んでくださいました。また、体験後には記念品を配布しました。

【「子ども用救護服・看護実習衣」お着替えコーナー】

赤十字に興味を持っていただききっかけ作りとして、実際に赤十字職員や看護学生が着用する救護服や看護実習衣(子どもサイズ)に着替えたお子様の姿を、保護者の方に自由に撮影していただきました。めったに体験することのできないイベントに、盛況を博しました。



・4 (赤十字奉仕団・赤十字ボランティア)

赤十字奉仕団には、市区町村の地域ごとに結成されている「地域赤十字奉仕団」、青年・学生によって組織されている「青年赤十字奉仕団」、看護師の資格など専門技術や知識を持った方々による「特殊赤十字奉仕団」があります。これら奉仕団は、赤十字事業の推進力として、地域的・社会的に重要な役割を果しながら今日に至っています。

また、個人登録のボランティアとして、日赤の災害救護活動をサポートする防災ボランティア、赤十字病院や献血ルームのボランティアなど、多くの方が赤十字ボランティアとして活動しています。

赤十字ボランティアの皆さまが、赤十字の一員として主体的に活動ができるよう内部統制の整備に努め、さらに地域の日赤窓口である地区・分区と連携し、引き続き活動の活性化を図ってまいります。

(1) 赤十字奉仕団結成状況

区分	奉仕団数	団員数
地域赤十字奉仕団	137団	10,276名
青年赤十字奉仕団	3団	275名
特殊赤十字奉仕団	12団	306名
計	152団	10,857名

(2) 会議・研修の開催状況

支部では奉仕団に関連する会議・研修会を、各奉仕団では奉仕団員が赤十字の理解を深め奉仕団の自主性や活動の活性化を図ることを目的とした赤十字奉仕団基礎研修会をこのように開催しました。

会議・研修会名	開催時期	会場	参加者
赤十字奉仕団・青少年赤十字指導講師会議	6月	支部	7名
赤十字奉仕団宮城県支部委員会	7月	支部	20名
赤十字奉仕団委員長・団長会議	7月(2回)	支部	59名
奉仕団リーダーシップ研修会	11月(3回)	支部ほか	46名
赤十字奉仕団基礎研修会		25奉仕団 延べ673名参加	



奉仕団リーダーシップ研修会

(3) 赤十字奉仕団活動奨励事業（令和6年度実績）

赤十字奉仕団活動をより一層活性化するため、宮城県支部では本社が掲げる以下の4つの活動を奨励事業として助成金を交付しています。各奉仕団は、地域高齢者福祉支援活動など地域等のニーズに応じた様々な活動を行っています。

活動内容	申請団数	申請額
① 地域高齢者福祉支援および青少年の健全育成	53団	4,882,000円
② 災害に対する救援・防災訓練	12団	1,045,000円
③ 献血の推進	1団	30,000円
④ その他赤十字の理想を達成するための活動	7団	530,000円
計	73団	6,487,000円



児童館に通うこどもたちに防災教室を開催（仙台市西多賀赤十字奉仕団）

(4) 赤十字防災ボランティア

日本赤十字社では、日赤の災害救護活動をサポートする「防災ボランティア」を募集しています。

宮城県支部では、日本赤十字社長期ビジョンの運動基盤強化戦略である「奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充」に基づき、ボランティアがより主体的に活動するため、引き続き災害時に活動するための知識と技能を研鑽する研修を開催してまいります。



ボランティア養成研修会
(ハイゼックスを用いたすき焼きづくり)

・5(青少年赤十字(JRC))

青少年赤十字は、学校教育の場において、指導者（教員）のもとに実施されており、幼稚園・保育所・認定こども園、小・中・高等学校等、特別支援学校に組織され、幼児教育・学校教育の中で進められています。

活動する際の態度目標である「気づき、考え、実行する」という自主性に基づき、世界の青少年赤十字に共通する3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や学校内外の実情に応じた活動を展開しています。

令和6年度、宮城県内の学校が最初に青少年赤十字に加盟登録してから100年を迎えました。各園・施設・校におけるJRC活動もコロナ禍で培われた工夫を活かしながら、より活動の幅を広げて展開しました。中学生及び高校生のJRCメンバーを対象とした「宮城県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」においても参加生徒は「これまで100年続いたJRC活動を未来へつなげるために今できること」をテーマとして、各校や部活動で今後取り組む活動を計画しました。

また、令和2年度から開催している「JRCオンライン語り部LIVE」を全国の青少年赤十字加盟校等を対象に配信しました。



(1) 青少年赤十字の3つの実践目標

- ① 「健康・安全」 生命と健康を大切にする。
- ② 「奉仕」 人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する。
- ③ 「国際理解・親善」 広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う。

(2) 加盟状況

区分	加盟校数	メンバーカー	指導者数	加盟率	
幼稚園	6園	251名	71名	201園中	3%
保育所（園）	17所	436名	204名	353所中	4.8%
認定こども園	14園	924名	293名	217園中	6.5%
小学校	49校	15,224名	981名	359校中	13.6%
中学校	36校	9,095名	731名	199校中	18.1%
義務教育学校	1校	230名	17名	4校中	25%
高等学校	24校	5,311名	630名	98校中	24.5%
特別支援学校	3校	76名	49名	30校中	10%
合計	150校	31,547名	2,976名	1,461校中	10.3%

(3) 会議・研修の開催 ※指協 … 青少年赤十字指導者協議会、賛協 … 青少年赤十字賛助奉仕団協議会

会議関係	主催	行事名	開催日	会場	参加者
会議関係	全国指協	青少年赤十字全国指導者協議会総会	7月12日	本社	県指协会会长
	県指協	宮城県青少年赤十字指導者協議会役員会	5月29日	支部・WEB	役員23名
			11月26日	支部・WEB	役員23名
	全国賛協	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会等	7/11・12	本社	県賛助奉仕団委員長・庶務2名
	北海道支部	第1ブロック支部青少年赤十字指導者研究会	11/21・22	北海道札幌市	第1ブロック支部JRC加盟校指導者等

(4) 青少年赤十字研究協力校の指定

学校名	指定年度	活動助成金額	実践発表
名取市立下増田小学校	令和5・6年度	200,000円	「宮城県青少年赤十字指導者協議会研修会」及び「宮城県青少年赤十字100周年記念式典」にて研究内容を発表

(5) 青少年赤十字国際交流事業

当支部では、長年にわたりタイ国赤十字社とそれぞれの赤十字施設や学校をJRCメンバーが直接訪問し、国際交流事業を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により令和2年度は中止としました。令和3年度からは、WEB会議形式で「RCY/JRCオンライン国際交流会」を実施しています。

【オンライン国際交流会】

区分	期日	参加者	主な内容
WEB	令和7年3月15日	タイ：RCYメンバー 10名 宮城：JRCメンバー 7名 青年赤十字奉仕団2名	①自己紹介 ②JRC活動の紹介 ③地域・文化紹介 ④プレゼント交換他



JRCメンバーが日本の文化を紹介している様子



参加者全員の記念写真

(6) JRCオンライン語り部LIVE

当支部では、東日本大震災から10年を迎えた令和2年度から震災の記憶と教訓を子どもたちに繋ぐため、公益社団法人3.11メモリアルネットワークと協働し、語り部さんの話をオンラインで全国の青少年赤十字加盟校の児童・生徒（小学校3・4年～高校生）に生配信する「JRCオンライン語り部LIVE」を開催しています。令和6年度は全国23都府県、延べ81校、4,317名が参加しました。

期間	配信回数	語り部	参加校・参加者数の内訳
令和7年1月～2月 のうち12日間	22回	公益社団法人3.11メモリアル ネットワークのメンバー 12名	小学校：46校 2,695名 中学校：18校 1,453名 高等学校：14校 153名 特別支援学校：3校 16名



小学生が語り部さんの話に熱心に耳を傾けている様子



中学生が真剣な面持ちで参加している様子

(7) 宮城県青少年赤十字100周年記念プロジェクト

令和6年度は、名取郡下増田村の下増田尋常小学校（現在の名取市立下増田小学校）が宮城県内で最初に青少年赤十字に加盟登録してから100年を迎えたことから、宮城県青少年赤十字100周年記念プロジェクトを実施しました。

①宮城県JRC100周年チャリティーフェスティバル

中学生及び高校生のJRCメンバーと指導者、支部指導講師等でプロジェクトメンバーを立ち上げ、JRCメンバーと共にイベントを企画、実施しました。

期日	会場	内容	運営
令和6年9月29日	サンモール一番町商店街・藤崎本館前	ステージ発表 JRC加盟校による合唱・弦楽合奏 他 工作ワークショップ チャリティー募金	JRCメンバー 32名 JRC指導者3名、 指導講師5名、 賛助奉仕団6名、 青年奉仕団4名、 支部職員4名



チャリティー募金



運営スタッフの集合写真

②宮城県青少年赤十字100周年記念式典

宮城県最初の加盟登録校である名取市立下増田小学校による研究協力校の実践発表、JRC指導者による活動発表や、それらを受けての意見交換を通じて、今後の青少年赤十字活動に期待を寄せる機会となりました。

期日	会場	内容	参加者
令和6年12月13日	日本赤十字社 宮城県支部	青少年赤十字研究協力校実践発表 ：名取市下増田小学校 活動発表：宮城県柴田農林高等学校川崎校 宮城県青少年赤十字活動資料展示	来場 37名 Web 3名



来場者による「青少年赤十字のちかい」の唱和



活動発表の様子

・6 (赤十字精神と社旨の普及)

赤十字の活動と必要性について、県民の皆様から理解が得られるよう従来の手法に加え、SNS等を活用し広報展開しています。また、赤十字大会の開催などを通じ、赤十字精神と社旨の普及に努めています。

(1) 広報活動

媒体等	実施時期等	事業内容
ホームページ SNS	通年	【ホームページ】 自家更新システムにより、タイムリーに情報提供しています。 【Facebook・Instagram】 日赤の様々な活動を、タイムリーに情報提供しています。
広報紙	月刊	【赤十字NEWS】 5,400部／月（本社発行）、当支部より配布しています。
	年3回	【日赤みやぎ】 A4判 6P・14,000部／5・9・1月支部より発行しています。 「赤十字NEWS」と併せて配布しています。
各種広告	随時	<ul style="list-style-type: none">①パブリシティ活動 支部事業等をPRするため、情報番組に出演しました。 9/4 ミヤギテレビ「OH！バンデス」 11/19 仙台放送「M i M i よりマーケット」②バス広告（10～12月） 仙台市交通局川内・実沢両営業所のバス計5台の中扉車外戸袋窓に、当社アンバサダー・上白石萌音さんをメインにしたPR広告を掲出しました。③タブロイド紙広告 【BizLifeStyle No.52（11月発行）】 赤十字の災害救護活動や国際的な人道支援をPRし、活動資金協力による社会貢献活動への参加を呼び掛けました。④新聞広告 【河北新報 正月特集号（2025年1月1日）】 全国の様々なキャラクターを一挙に紹介する「2025お正月企画 キャラクターがいっぱい!!」で、当社公式キャラクターのハートラちゃんを掲載しました。
イベント	随時	<p>【IZUMI未来構想フェスティバル】 5月11日 泉中央駅前で（一社）泉青年会議所主催のイベント「IZUMI未来構想フェスティバル」が開催され、当支部も参加しました。（約40組参加） 内容：AED体験、赤十字なりきり体験（子ども用救護服・看護実習衣での記念撮影）、活動紹介パネル展、車両展示、ハートラちゃん着ぐるみによるPR</p> <p>【日本赤十字社宮城県支部 新社屋見学会】 5月18日 令和5年10月に泉区に移転した新社屋の紹介と、赤十字活動への理解促進を目的に施設見学会を実施し、地域住民の皆様を中心に参加いただきました。（約80名来場） 内容：施設見学、赤十字クイズ、ブチ防災セミナー、段ボールベッド組み立て体験、無線体験、AED体験、赤十字なりきり体験（子ども用救護服・看護実習衣での記念撮影）、「赤十字この1年」上映、活動紹介パネル展示、ハートラちゃん着ぐるみによるPR</p> <p>【1%（ワンパーセント）フェス】 11月4日 西公園で（一社）1%（ワンパーセント）主催のイベント「1%フェス」が開催され、当支部も参加しました。（約180組参加） 内容：AED体験、赤十字なりきり体験（子ども用救護服・看護実習衣での記念撮影）、車両展示</p>
その他	随時	【子ども用救護服・看護実習衣、活動紹介パネルを用いたPR】 奉仕団の皆様の協力を得て、地域で開催する各種イベントに際し「子ども用救護服・看護実習衣」の記念撮影や活動紹介パネル展示等によるPR活動を実施しています。

当支部の活動を見る化した広報紙
「日赤みやぎ」

活動資金がどのように使われているかをまとめた募集用チラシ



タブロイド紙に赤十字の活動を紹介する広告を掲載



ワールド・ファーストエイド・デー 2024
(イオンモール新利府)

(2) 「赤十字大会」・「赤十字の集い」などの開催

全国赤十字大会へ参加するとともに、支部が主催する「社資功労者感謝のつどい」や県内3地区（本部）で大会等を開催しました。

また、活動資金のご協力や日々の赤十字活動にご尽力いただいた方々を顕彰しました。

主催	名称	開催日	会場	参会者数
本社	全国赤十字大会	5月15日	明治神宮会館（東京都）	1,600名
支部	社資功労者感謝のつどい	10月24日	ホテル白萩（青葉区）	51名
地区	塩竈市赤十字奉仕団表彰式	8月8日	ふれあいエスプ塩竈（塩竈市）	49名
	仙台市地区本部赤十字奉仕団大会	8月23日	仙台市福祉プラザ（青葉区）	175名
	石巻市地区赤十字功労者表彰式	11月7日	石巻市ささえあいセンター（石巻市）	54名

・7 (パートナーシップ協定等)

赤十字事業にご賛同いただいた法人・団体等と相互の資源を有効に活用して密接に連携・協働することにより、自然災害や高齢化に伴う健康不安など社会を取り巻くリスクへの対応や赤十字の理念の普及を目的として、パートナーシップ協定を結んでいます。

また、お申し出をいただいた自動販売機設置者と覚書を取り交わし、活動資金へのご協力をいただく寄付金型自動販売機の設置も進めています。

パートナーシップ協定の締結先	
学校法人梅檀学園 東北福祉大学	日産プリンス宮城販売株式会社
ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区	七十七銀行
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社仙台支店	三井住友信託銀行
株式会社仙台 89ERS	

・8 (会員・協力会員の募集状況)

日本赤十字社は、毎年2,000円以上を拠出して組織の運営に参画してくださる「会員」と、組織運営への参画までは望まないが、金額によらず活動資金を支えていただく「協力会員」を募集しています。

令和6年度は、人口減少や物価高が続く経済状況も相まって長期間厳しい募集状況が続きました。法人募集は残念ながら前年を下回ったものの、赤十字活動を熱心にご支援くださる方々のご協力により全体では募集計画を達成することができました。

これからも、人間のいのちと健康、尊厳を守る赤十字活動を安定して継続するために、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

◎社資実績

募集取扱い	区分	募集計画額	実績額	計画達成率	前年同期実績額	前年同期比
地域	個人	232,046,700円	224,256,355円	96.6%	231,120,796円	97.0%
	法人	10,938,000円	11,107,641円	101.6%	11,561,825円	96.1%
支部	個人	40,953,300円	103,700,001円	253.2%	60,514,102円	171.4%
	法人	16,062,000円	21,171,484円	131.8%	21,917,354円	96.6%
合計		300,000,000円	360,235,481円	120.1%	325,114,077円	110.8%

・9 (評議員会等の開催状況)

本社理事会・代議員会、当支部評議員会とともに、感染防止に努めながら、参考形式で開催しております。

主催	名称	開催場所
本社	日本赤十字社理事会・第104回代議員会	6/28 新霞が関ビル(東京都)
	日本赤十字社理事会	11/22 日本赤十字社本社(東京都)
	日本赤十字社理事会・第105回代議員会	3/19 新霞が関ビル(東京都)
支部	第133回日本赤十字社宮城県支部評議員会	6/17 日本赤十字社宮城県支部(泉区)
	第134回日本赤十字社宮城県支部評議員会	2/13 日本赤十字社宮城県支部(泉区)

・10 (職員研修の開催状況)

主催	名称	開催日	会場	参加者数
本社	新規採用職員研修会	4/3～5	日本赤十字社本社 (東京都)	1名(仙台日赤1名)
	全国基幹幹部職員養成研修	10月	WEB	1名(石巻日赤1名)
	全国中堅幹部職員養成研修	9月	WEB	1名(石巻日赤1名)
ブロック	第一ブロック支部 合同職員(係長)研修会	9/11～13	秋田県社会福祉会館 ※当番県 秋田県支部	35名(青森4名/秋田12名/ 岩手3名/山形1名/福島6名/ 宮城9名)
支部	新任職員研修会	4/1、2	仙台赤十字病院	40名
	中堅職員研修会	11/21～22	日本赤十字社 宮城県支部	24名(仙台日赤5名/石巻日赤7名/ 宮城BC3名・東北BBC7名/支部2名)

・11 (支部事務局職員数)

職種	専任	嘱託等	計
事務職員	12名	2名	14名
保健師	1名	0名	1名
看護師	1名	0名	1名
計	14名	2名	16名

・12(医療事業

1. 仙台赤十字病院

(1) 令和6年度診療実績

地域医療支援病院として年間の紹介率は84%、逆紹介率は157.7%と地域医療に貢献しております。経営収支は、前年度比で、医業収益が5.4%増加した一方で、医業費用は15.5%減となりました。その結果、医業収支差引額は、9.1億円の黒字となり、令和5年度の9.0億円の赤字から大幅に改善しました。なお、退職給付引当金繰入額の精算(10.3億円減)が費用減の大きな要因となっており、これを除いた医業費用ベースでは、実質的には、前年度比2.4億円減(2.7%減)と、抑制傾向にあります。



仙台赤十字病院外観

(2) 救急医療

仙台市病院群当番制事業に参加しており、年間2,664件の救急車を受け入れています。また、令和6年度より、仙台市立病院などの関係機関と連携し、救急病院から専門的治療を終了した患者さんの受け入れを強化しており、79件の搬送の受け入れを行いました。

(3) 宮城県立がんセンターとの統合

仙台赤十字病院と宮城県立がんセンターを統合し、名取市植松入生に新たな拠点病院を整備し、新病院の設置および運営は日本赤十字社が行うこと等として、令和5年12月に宮城県・地方独立行政法人宮城県立病院機構・日本赤十字社の3者による基本合意を締結、令和6年11月に基本構想を策定しました。

基本構想の事業方針、基本機能等に沿って、令和6年12月から両病院の現場スタッフで構成される部門別ワーキングにより、施設整備計画(基本計画)の策定に向けた作業に取り組んでいます。

(4) 各種災害(山形豪雨災害・岩手県大船渡市林野火災)への対応

令和6年7月の山形豪雨災害を受け、同年8月、山形県酒田市へこころのケア班派遣を行いました。

また、令和7年3月に発生した大船渡市の林野火災においてもこころのケア班1班を派遣しました。避難所の設営などといった環境整備の活動や、傾聴活動などを行い、被災者のこころのケアに務めました。今年度より、院内に救護班のサポートメンバーを置き、クロノロジーの記載や物品の準備などの後方支援を強化し、派遣先・派遣前後における職員の負担が軽減できる体制を整備しました。



こころのケア班壮行式

(5) 広報強化・地域住民との連携

令和6年度より、広報室やIT室といった専門部門を新たに設置しました。

特に広報活動においては、広報室が中心となり、HPの情報の最適化、掲示物の見直しによる院内の美化、地域のイベントへの参加、と病院全体を巻き込んだ積極的な活動を行っています。



八木山市民ふれあいまつり
でのAED体験

(6) 教育研修の機会の充実と地域関係施設との連携強化

院内で職員向けに、コードブルー訓練や救急法短期講習、職員防犯・安全研修会など、教育研修の機会を増加させました。また、院外向けにも、令和6年度より関係施設向けの研修会「仙台赤十字病院と介護施設・事業所との懇談会」を月1回開催し、情報の共有と連携強化を図っています。



職員防犯・安全研修会

(7) 創立100周年

当院は令和6年度、開院100周年を迎えました。地域に愛され信頼される病院を目指し、引き続き職員一同精進いたしますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



創立100周年記念クリスマスパーティー



100周年を記念し配付されたコースター

令和6年度診療実績

区分		患者数
入院	のべ患者数	96,601名
	1日平均	265名
外来	のべ患者数	106,300名
	1日平均	437名

2. 石巻赤十字病院

当院は、“世界一強く、そして優しい病院”をビジョンに掲げ、「働きがいのある職場づくり」「高度・急性期医療への集中」「業務プロセスの最適化」という3つの戦略のもと、様々な施策を展開してきました。

地域医療連携については、地域の各医療機関と切れ目のない医療を提供するため、がんや肺炎、COPDに加え、大腿骨頸部骨折や心不全等の疾患別地域連携ネットワークのさらなる拡充を進めました。併せて、患者さんがスムーズに入院を迎え、望ましい状態で退院・転院し、地域で安心して継続的に医療・介護・福祉サービスを受けることができるよう、院内においては入院前・退院前の早期支援体制の整備、院外とは各医療機関や在宅支援チームとの連携体制の整備を進めています。

救命救急医療では、“断らずに済む”診療体制を維持し、令和6年度は24,578人の救急患者を受け入れ、地域の救命救急センターの役割を担ってきました。

地域がん診療連携拠点病院として整備指針に基づいて地域におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに、質の高いがん医療の提供体制の確立を目指しています。がん患者やその家族ががん治療に伴って抱える不安や辛さに対しては、がん相談支援センターや緩和ケアセンターなどで多職種で連携してサポートしていく体制を構築しています。

臨床研修指定病院としての活動は、当院の特徴であるがん診療、救急医療、高度な医療、地域医療、災害医療など、さまざまな医療提供を行うための基礎的技能の習得に向け、研修医のニーズを反映した環境づくりの支援を継続的に進めるとともに、医師の働き方改革への対応として、適切な労務管理のもと研修が進められるよう取り組みました。研修医数は、例年同様フルマッチングで内定したものの1名辞退者があり、2次募集を経て14名の臨床研修医が入職しました。研修医の希望を反映させたローテイスクケジュールの調整に加え、手技セミナーを入職早期にオリエンテーションに組み入れるなどし、よりよい研修環境づくりを行いました。また、必修領域のローテイトする期間を4週から5週に変更し、学会参加等による研修日数の減少が発生しても研修日の不足に耐えうる体制を整備しました。2月には指導医養成講習会を自院開催し、32名の受講者（うち当院職員13名）をもって終了でき、臨床研修環境の強化につなげています。医学生向けの説明会等は6回（うちオンライン説明は3回）実施し、当院研修プログラムへの興味・関心喚起に努めました。医学生の見学・実習も積極的に受け、308名（実習112名、見学195名・オンライン見学1名）の受け入れを行いました。また、内科と外科の専門研修プログラムを有しており、内科3名、外科2名を採用、専攻医と積極的にコミュニケーションを取り研修環境調整と整備、専門医育成と定着に向けた支援を継続的に行ってています。



病院の全体外観



ふれあい看護体験



第60回日本赤十字社医学会総会

災害救護活動として、7月に発生した山形豪雨災害にこころのケア班1班、2月に発生した大船渡市林野火災に救護班1班を派遣しました。令和6年10月には石巻医療圏災害保健医療対応訓練を実施し、市町や保健所の職員、地域災害医療コーディネーター・救護班、当院・他校看護学生等約220名が参加しました。訓練では、各医療圏保健医療調整本部の運営や連携を確認し、避難所アセスメント実施による情報収集や分析等を通じて、各機関の情報伝達や連携を強化し、災害医療活動の習熟を図りました。令和6年11月には、マニュアルの検証を目的に大規模地震災害実働訓練を実施し、当院職員と当院看護学生等約400名が参加しました。訓練と同時にみちのくアラートにも協力し、自衛隊との合同訓練も行いました。訓練には見学者も迎え、各地域に開かれた訓練を行なっています。また、赤十字事業に貢献できる人材として今年度は幼児安全法指導員を4名養成しました。

設備投資としては、より高度で安全な医療サービスを提供するために、老朽化した設備・機器等の更新を計画的に実行しています。

令和6年度の経営収支について、実稼働病床数の増加による患者増により入院・外来診療収益とともに増加し、医業収益は前年度比5.7%増となりました。医業費用は、退職給付関連費用の期末整理による約12.6億円もの巨額の費用戻入を計上したことから給与費が大きく減少し、前年度比2.2%減となりました。医業収支においては大幅な黒字決算となりました。医業外収支においては、新型コロナウイルス感染症関連の補助金が廃止となりましたが、利益を計上しました。最終的な総収支は、1,171,497,083円の大幅黒字となりました。ただし、前述の巨額の費用戻入は非キャッシュ性の会計処理であることからキャッシュ面のプラスはありません。したがってキャッシュフローはマイナスであり、経営実態は依然として厳しい状況です。

令和6年度診療実績

区分		患者数
入院	のべ患者数	167,665名
	1日平均	459名
外来	のべ患者数	280,556名
	1日平均	1,160名



海上保安庁合同訓練

・13(看護師養成事業

石巻赤十字看護専門学校

1. 教育について

令和6年度の在校生は、中学、高校時代に新型コロナウイルス感染症による活動制限の影響を受けた学生たちです。人との直接的なコミュニケーションを苦手とし、講師の話を聞いているだけの授業では、学生の興味・関心を引き出せない難しさがあります。当校では、グループワークや演習等のアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生が主体的に学習できる授業の組立てを各専任教師が進めています。他に院内講師として石巻赤十字病院の各専門職の方々に協力を得ていますが、認定看護師・専門看護師・特定看護師などの看護のスペシャリストにも入って頂くことで、学生のキャリア目標の設定や学習の動機づけになればと期待しているところです。また、コミュニケーション力や観察力、多職種連携のあり方等については、臨地で直に患者さんと接することや、実際に働いている医療職を目にしてすることで培われ、学習効果が高まっていることを感じます。今後も現場の力を借りながら、より良い学びに繋げられるよう尽力していこうと思います。

また、当校の特色として看護技術の習得に向けて学生ピアグループによる活動を取り入れています。1～3年生が均等に少人数グループに分かれ、グループの先輩が1年生に技術指導を行うシステムですが、学年を超えた貴重な情報交換の場にもなっているようです。このような学習支援を行い、令和6年度は無事に全員が卒業・進級できました。年度末に実

施している教育目標到達度自己評価では、全学年とも8つある教育目標への年次の自己評価平均が、5段階評価の4.0以上であり、学年目標への到達はできていると評価していました。学生は環境に適応しながら学習に取り組んでいることを実感しています。

2. 教育環境の整備

学生は在学中、学種活動や学生同士あるいは教師、実習指導者との関りの中で多くの課題や困難を乗り越える必要があります。そのため当校では、学校カウンセラー相談室を設置し、専門家による支援を継続しています。学校カウンセラーの活用により、令和6年度は休学や退学に至る学生は発生しませんでした。

新型コロナのパンデミックにより看護師養成教育はDXを活用した教育を取り入れる学校が急速に増え、大きな変化を迎えました。高校時代に電子教科書や資料のペーパーレス化の下で教育を受けてきた学生が、より学びやすい環境を目指して、令和7年度からは電子教科書を導入し、さらにDX化の推進に力を入れていこうと考えています。

実習においては、令和4年度の新カリキュラム導入以降、地域施設での実習時間を増やしていますが、各実習施設のご協力もあり、計画通りに臨地で実習ができました。学内演習においても病院職員の協力を得て、実践さながらの充実した内容で授業が展開できました。今後も、病院・地域施設のご協力を得ながら、学生がより良く学べる場の提供に努めて参ります。

3. 受験生・入学生の確保

18歳人口の減少により、大学を始めとした高等教育機関では入学生の確保が大きな課題となっています。当校においても年々受験者が減少し、入学生の確保には心血を注いでいます。令和6年度は宮城県内・県外へと積極的に進路ガイダンスへ出向きました。各種進路ガイダンス19件、資料のみの出展3件に参加しています。他に希望者への学校案内を6件受け入れました。オープンスクールについても学生自治会主催の学校祭と併せて2日間実施しています。その結果、出願倍率は、推薦1.5倍、一般1.6倍を維持し、令和7年度は40名の入学生を確保できました。引き続きアドミッションポリシーに則した学生の確保に向け、今後も学校説明会への積極的な参加等、学生確保に向けた取り組みを強化していく考えています。

4. 赤十字医療施設への就職状況

卒業生の設置病院への就職者は32名(80%)、進学者1名を除くと赤十字病院への総就職率は82%でした。今後も地域における設置病院の役割に貢献できる看護師の育成について、病院教育担当者とさらに協議を進め、赤十字医療施設への就職率の維持に努めています。現在、設置病院の人事部門と協働して2年生への進路(就職)ガイダンスや、学生の希望に合わせた講師の検討等を継続して行っています。これにより学生は明確なキャリア構想を述べられるようになっています。今後も、設置病院と協働で学生へのキャリア支援を進めていきたいと考えています。

なお、赤十字以外の病院への就職者は7名(18%)、進学者は1名(大学編入:養護教諭養成コース)でした。

5. 地域との連携・社会貢献

令和4年度から新カリキュラムが導入され、地域の施設やNPO団体の活動を知るために病院外施設での実習が増えました。令和6年度はその実習先施設から学生ボランティアの派遣要請を受けることが多く、学生と相談しながら可能な限り対応しました。活動終了後には、次年度もお願いしたいとの依頼を受けることが大半で、超高齢社会の中で、地域が若者の力を必要としていることを感じます。もちろん赤十字施設、特に献血キャンペーンへの応援依頼は年々増え、学生奉仕団の主要な活動の場となっています。今後も社会に貢献できる活動を継続していきたいと思います。

学生の活動の様子は学校ホームページへ掲載し、広く一般の人々へも公開しています。

令和6年度在校生(令和7年3月31日現在)

学年	学生数
第1学年	40名
第2学年	29名
第3学年	40名
計	109名



災害演習



医療安全



キャリアガイダンス

・14 血液事業

日本赤十字社は、安全な輸血用血液製剤を安定的に供給し、輸血を必要とする患者さんがいつでもどこでも安心して輸血を受けられるように、全国を7つのブロック(北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中四国、九州)に分けて、ブロック内の血液の需給バランスの調整を図る広域事業運営を行っています。

宮城県赤十字血液センターは、過疎化、少子高齢化が進む東北6県をエリアとする東北ブロックに属し、ブロックの中で人口が最も多く若年層の割合が高いことから、献血者確保の中心的な役割を果たしています。

また、輸血用血液製剤は、採血後限られた時間内で調製しなければならないため、面積の広い東北ブロックにおいて、製造業務を行う東北ブロック血液センターに隣接する宮城県赤十字血液センターは、医療機関の需要に応じて必要な血液を適時に迅速に確保するうえでも、重要な役割を担っています。

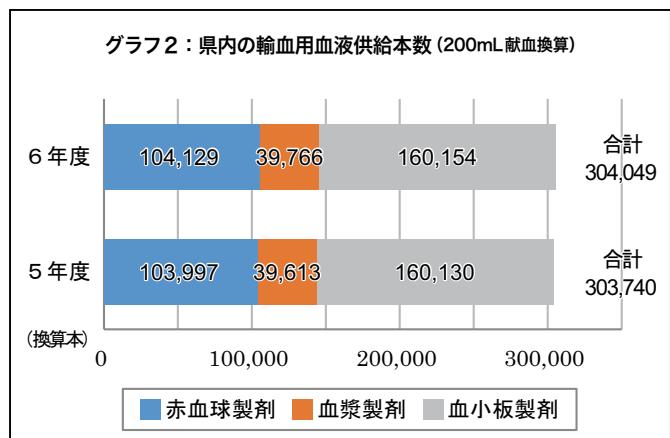
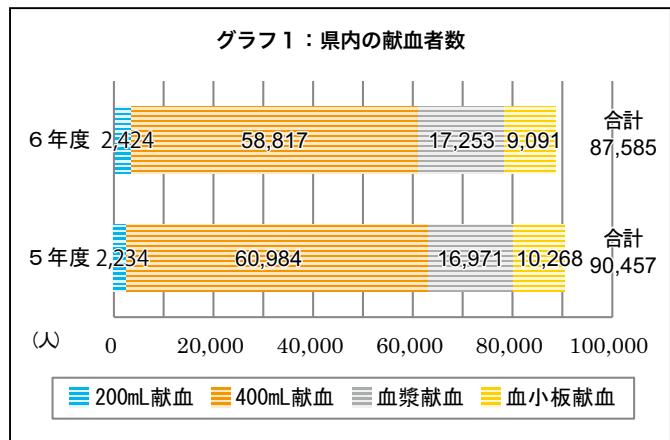
令和6年度の全国の献血者数は、4,987,309人(対前年度比-0.44%、21,972人減)で、このうち宮城県では87,585人(同-3.17%、2,872人減)の皆様にご協力をいただきました。献血種類別では、200mL献血が2,424人(対前年度比+8.5%、190人増)、400mL献血が58,817人(同-3.55%、2,167人減)、血漿成分献血が17,253人(同+1.66%、282人増)、血小板成分献血が9,091人(同-11.46%、1,177人減)となりました(グラフ1参照)。

一方、令和6年度の全国の輸血用血液製剤供給本数(200mL献血を1本として換算)は、17,372,906本(対前年度比-0.33%、58,287本減)で、このうち宮城県内の医療機関への供給本数は304,049本(同+0.10%、390本増)でした。血液製剤別では、赤血球製剤が104,129本(対前年度比+0.13%、132本増)、血漿製剤が39,766本(同+0.39%、153本増)、血小板製剤が160,154本(同+0.01%、24本増)となりました(グラフ2参照)。

少子高齢化が進む中で、宮城県でも10代(令和4年度:4,280人→令和5年度:4,462人→令和6年度4,643人)、20代(令和4年度:14,023人→令和5年度:13,350人→令和6年度:13,350人)



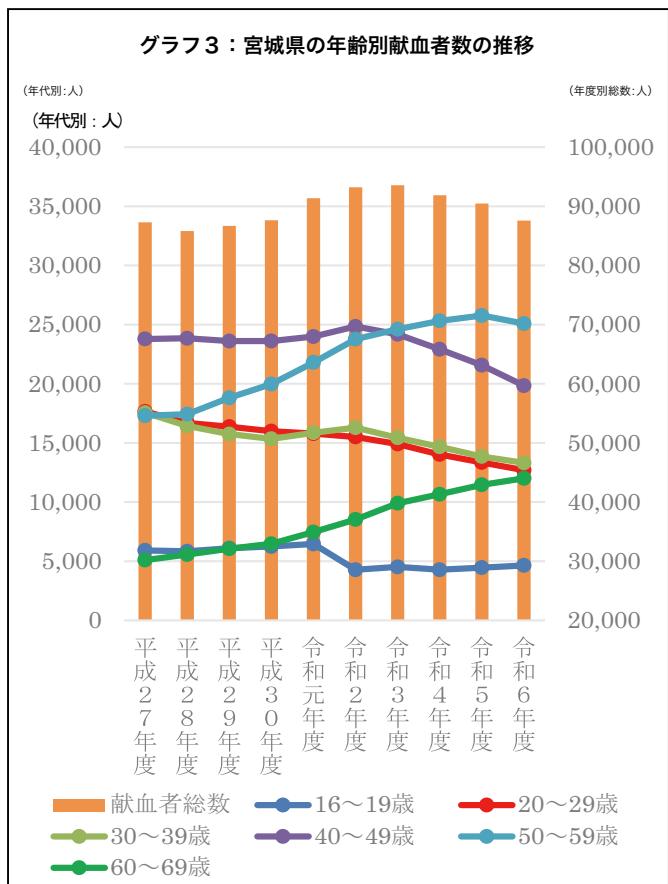
宮城県赤十字血液センター



6年度12,694人)、30代(令和4年度:14,667人→令和5年度:13,852人→令和6年度13,316人)の献血者をいかに増やすかが喫緊の課題となっています(グラフ3参照)。

令和6年度は、宮城県知事および宮城県教育庁の協力の元、従来の献血実施のみならず、高校での献血セミナーや献血バスの見学などにより献血啓発活動に重点を置き若年層確保に努めています。

宮城県赤十字血液センターでは、国の掲げる基本方針に基づき、血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保とともに、事業の最大限の効率化及び合理化を図り、適正かつ健全な事業運営に努めています。



新しい献血運搬車が配備されました

・15(令和6年度決算

○一般会計
〈日本赤十字社宮城県支部〉

歳入歳出状況 (単位：円)

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
社 資 収 入	360,235,481	災害救護事業費	55,868,662
委託金等収入	22,968,668	社会活動費	73,222,715
補 助 金 及 び 交 付 金 収 入	10,302,065	国際活動費	1,072,000
災 害 義 援 金 預 り 金 収 入	0	指 定 事 業 地 方 振 興 費	7,000,000
繰 入 金 収 入	1,200,000	地 区 分 区 交 付 金 支 出	41,638,215
資 产 収 入	1,207,500	社 業 振 興 費	39,094,842
雜 収 入	5,902,539	基盤整備交付金・ 補 助 金 支 出	8,000,000
前 年 度 繰 越 金	185,982,111	積 立 金 支 出	178,033,076
		総 務 管 理 費	46,430,891
		資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	4,910,553
		本社送納金支出	51,785,322
合 計	587,798,364	合 計	507,056,276
歳入歳出差引残高 80,742,088 (翌年度繰越金)			

○医療施設特別会計
〈仙台赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	8,435,834,244	医 業 費 用	7,522,298,487
医 業 外 収 益	231,012,139	医 業 外 費 用	31,384,523
医療社会事業収益	16,291,983	医療奉仕費用	38,044,586
付 帯 事 業 収 益	0	付 帯 事 業 費	0
特 別 利 益	408,297	特 別 損 失	1,914,496
		法 人 税 等	5,162,485
合 計	8,683,546,663	合 計	7,598,804,577
収入支出差引額 1,084,742,086			

〈石巻赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	21,773,999,308	医 業 費 用	21,434,839,076
医 業 外 収 益	1,104,627,534	医 業 外 費 用	155,298,687
医療社会事業収益	62,594,079	医療奉仕費用	109,749,074
付 帯 事 業 収 益	143,606,821	付 帯 事 業 費	201,252,812
特 別 利 益	84,890	特 別 損 失	4,900,192
		法 人 税 等	7,375,708
合 計	23,084,912,632	合 計	21,913,415,549
収入支出差引額 1,171,497,083			

資本的収入及び支出

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	63,316,000	固 定 資 産	173,950,988
資 產 売 却 収 入	0	借 入 金 等 償 還	23,271,500
そ の 他 資 本 収 入	133,906,488	そ の 他 負 債	0
合 計	197,222,488	合 計	197,222,488
収入支出差引額 0			

資本的収入及び支出

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	84,917,900	固 定 資 産	224,299,630
資 產 売 却 収 入	0	借 入 金 等 償 還	512,994,000
そ の 他 資 本 収 入	652,375,730	そ の 他 負 債	0
合 計	737,293,630	合 計	737,293,630
収入支出差引額 0			

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

これからも
ご協力よろしく
お願いします



日赤公式マスコットキャラクター

ハートラちゃん

■宮城県の赤十字支部・施設

名 称	所在地・ホームページ	電話・FAX
日本赤十字社宮城県支部	〒981-3117 仙台市泉区市名坂字石止44-7 ホームページ https://www.jrc.or.jp/chapter/miyagi/	☎ 022(725)7520 FAX 022(725)5150
仙 台 赤 十 字 病 院	〒982-8501 仙台市太白区八木山本町2-43-3 ホームページ https://www.sendai.jrc.or.jp/	☎ 022(243)1111 FAX 022(243)1101
石 巻 赤 十 字 病 院	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ https://www.ishinomaki.jrc.or.jp/	☎ 0225(21)7220 FAX 0225(96)0122
石巻赤十字看護専門学校	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ https://www.ishinomaki.jrc.or.jp/school/	☎ 0225(92)6806 FAX 0225(95)5015
宮城県赤十字血液センター	〒981-3206 仙台市泉区明通2-6-1 ホームページ https://www.bs.jrc.or.jp/th/miyagi/	☎ 022(290)2501 FAX 022(777)6335
献血ルームアエル20	〒980-6120 仙台市青葉区中央1-3-1 アエル20階	☎ 022(711)2090
杜の都献血ルームAOBA	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-9-18 TICビル6階	☎ 022(738)9101
登 米 供 給 出 張 所	〒987-0511 登米市迫町佐沼字小金丁48-1	☎ 0220(22)2898